

EPSON

EPSON OPOS-X ADK

# インストールマニュアル

Revision B    Mar. 2005

#### ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容につきましては、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容につきましては万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたらご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) このソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
- (5) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

#### 商標

Microsoft、Windows 2000、Windows XP、Visual Basic、Visual C++ は米国マイクロソフト社の登録商標です。

EPSON は、セイコーエプソン(株)の登録商標です。

ESC/POS は、セイコーエプソン(株)の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標、または登録商標です。

# 目次

<b>第1章 開発全般</b> .....	<b>1</b>
1.1 特徴 .....	1
1.2 動作環境 .....	1
1.3 必要なシステム構成 .....	2
1.4 動作仕様 .....	3
<b>第2章 インストール</b> .....	<b>5</b>
2.1 インストールの特徴 .....	5
2.2 インストールディスクの説明 .....	5
2.3 インストールに必要なシステムファイル .....	6
2.4 インストール操作 .....	6
2.4.1 はじめてインストールする場合.....	6
2.4.2 上書きインストールする場合 .....	10
2.5 インストールされるファイル .....	16
2.6 CO の登録 .....	17
2.7 INI ファイル .....	18
2.8 システム設定ファイル .....	18
2.9 レジストリファイルを使用したインストール方法 .....	18
2.10 サイレンスインストール .....	19
2.11 メッセージ .....	21
2.11.1 起動時のメッセージ.....	21
2.11.2 インストール動作中のメッセージ .....	22
2.11.3 サイレンスモード指定時のメッセージ .....	23
2.11.4 レジストリファイル関連のメッセージ .....	23
2.12 インストール時の注意 .....	24
2.13 アンインストール .....	24
2.14 アンインストール操作 .....	25
2.15 サイレンスアンインストール .....	25
2.16 システムファイルのアンインストール .....	26
2.17 アンインストールメッセージ .....	26
2.18 アンインストール時の注意 .....	26
<b>第3章 SETUPPOS-X ユーティリティ</b> .....	<b>27</b>
3.1 SETUPPOS-X ユーティリティの起動 .....	27
3.1.1 SetupPOS-X ユーティリティを起動するには .....	27
3.1.2 SetupPOS-X ユーティリティを終了するには .....	27

<b>3.2 基本操作（メインダイアログボックス） .....</b>	<b>28</b>
<b>3.2.1 メニュー .....</b>	<b>28</b>
<b>3.2.2 ツールバー.....</b>	<b>37</b>
<b>3.2.3 左ウィンドウ.....</b>	<b>38</b>
<b>3.2.4 右ウィンドウ.....</b>	<b>38</b>

# 第1章 開発全般

---

---

EPSON OPOS-X ADK の概要について説明します。

## 1.1 特徴

EPSON OPOS-X ADK は、POS システムを構成する周辺機器にかかわるインタフェースの標準化を行い、Windows 2000、Windows XP のプラットフォーム上でサポートされる ActiveX Control を用いて、Visual Basic から容易に使用できる API 関数を提供します。

標準化された API 関数を用いて POS アプリケーションを開発することにより、オープンで多機能な POS システムの構築が可能となります。

EPSON OPOS-X ADKは、デバイスに対する出力をイメージで行うことを基本とした構造を持っています。これにより、従来の OPOS では実現できなかった Windows フォントの印字、フリーレイアウト機能、タブ機能を容易に使用できる API 関数を提供します。

## 1.2 動作環境

EPSON OPOS-X ADK は、以下の環境での動作を確認しています。

- コンピュータ本体  
IBM PC/AT 互換機
- オペレーティングシステム  
Windows 2000 日本語版  
Windows XP 日本語版

- 対象 USB ポート

次の条件を満たしていることが必要となります。

- ・ USB コネクタを持ち、USB 拡張カードを使用した IBM PC/AT 互換機に正常に USB 機器が接続されていること。
- ・ 使用時には Windows 2000、または Windows XP が稼働していること。

なお、Windows 98 日本語版以前に発売された USB コネクタを持つ IBM PC/AT 互換機を使用していて、USB デバイスの認識等が正常に行えない場合は、使用している IBM PC/AT 互換機メーカーにお問い合わせください。

- サポート言語

Microsoft Visual BASIC Ver5.0 以上 日本語版

Microsoft Visual C++ Ver5.0 以上 日本語版

- 対象デバイス

- 【プリンタ (Printer)】

EPSON TM-C100

### 1.3 必要なシステム構成

EPSON OPOS-X ADK を使用したアプリケーションを開発するには、次のようなハードウェア、およびソフトウェア構成が必要です。

- コンピュータ本体

IBM PC/AT 互換機

- オペレーティングシステム

Windows 2000 日本語版

Windows XP 日本語版

- フロッピーディスクドライブ or CD ドライブ

フロッピーディスクドライブ or CD ドライブ 1 台以上

- ハードディスク、メモリ

使用する OS (Windows 2000、Windows XP) が推奨している容量に加え、ハードディスクの空き容量が最低でも 10M バイト必要です。

## ■ パッケージの内容

パッケージの内容は、次のとおりです。

次のものがすべて揃っていることをご確認ください。

ディスク：

「EPSON OPOS-X ADK インストールディスク」というラベルが貼ってあるディスクには、EPSON OPOS-X ADK に関するソフトウェアやマニュアルが格納されています。

< サンプルプログラム >

EPSON OPOS-X ADK インストールディスクには、サンプルプログラムが用意されています。使用方法につきましては、「EPSON OPOS-X ADK 操作マニュアル」を参照してください。

< マニュアル >

EPSON OPOS-X ADK のパッケージには、次のマニュアルが含まれます。

- ・ 「インストールマニュアル」

EPSON OPOS-X ADK のインストール、環境設定の方法について記述したガイドです。

- ・ 「アプリケーション開発ガイド」

周辺機器の制御方法について、プログラミング例を用いて説明したガイドです。

- ・ 「操作マニュアル」

サンプルプログラムの概要や詳細説明、注意事項が記載されています。

- ・ 「拡張機能リファレンスマニュアル」

EPSON 独自の拡張機能について、プロパティ、メソッドの説明が記載されています。

- ・ 「TM Maintenance Utility マニュアル」

TM Maintenance Utility の概要や詳細説明、注意事項が記載されています。

## 1.4 動作仕様

EPSON OPOS-X ADK は、以下に示す動作仕様をサポートしています。

### ■ UPOS 仕様

Version1.7 準拠

### ■ 拡張仕様

EPSON OPOS-X ADK では、以下の機能を拡張し、提供しています。

- Windows フォントの印字に関する新規プロパティの追加、既存プロパティ

の更新、既存メソッドの更新

- フリーレイアウト機能に関する新規プロパティの追加、既存プロパティの更新、新規メソッドの追加、既存メソッドの更新
- タブ設定機能に関する新規プロパティの追加、新規メソッドの追加、既存メソッドの更新
- オートシードフィーダ（ASF）機能に関する新規プロパティの追加、既存メソッドの更新

拡張機能、および使用方法につきましては、「EPSON OPOS-X ADK マニュアル アプリケーション開発ガイド 開発全般」を参照してください。



## 第2章 インストール

---

---

EPSON OPOS-X ADK のインストールプログラムを実行することで、EPSON OPOS-X ADK のインストールに必要なすべての処理を行うことができます。

インストールでは、OPOS-X を快適に使用していただくためのいくつかの機能を提供しています。詳細につきましては、本章をお読みください。

インストール/再インストールを行う場合は、OPOS-X のファイルを使用しているアプリケーションはもちろんのこと、他のアプリケーションが動作していないことを必ずご確認ください。

その他、インストールに関していくつかの注意事項があります。本マニュアルの「2.12 インストール時の注意」に記載してありますので、インストール前に必ず内容をご確認ください。EPSON OPOS-X ADK をインストールした後は、ポート、およびデバイスの環境設定を確認していただく必要があります。

詳細につきましては、本マニュアルの「第3章 SetupPOS-X ユーティリティ」を参照してください。

以下に、EPSON OPOS-X ADKのインストールプログラムについてご説明します。

### 2.1 インストールの特徴

本インストールは、InstallShield6.3 を使用して作成されています。  
大きく分けると、以下の処理を実現します。

- ・インストール先ディレクトリの指定
- ・インストール先スタートメニューフォルダの指定
- ・レジストリファイルの指定
- ・コンポーネント別インストール
- ・サンプル
- ・マニュアル
- ・レジストリファイルを使用した OPOS-X 環境の復元
- ・Silent モードのインストール/アンインストール

### 2.2 インストールディスクの説明

インストールディスクは、複数のディスクから構成されています。  
インストール手順に従い、ディスクの入れ替えを行ってください。  
CD からインストールされる方は、ディスクの入れ替えを行う必要はありません。

## 2.3 インストールに必要なシステムファイル

本ソフトウェアには、下記のバージョン以上のシステムファイルが必要です。

MFC42.DLL	Version 6.00.8168.0 *Copyright (C) Microsoft Corp. 1993-1998
MSVCRT.DLL	Version 6.00.8168.0 *Copyright (C) Microsoft Corp. 1981-1998
OLEAUT32.DLL	Version 2.40.4275 *Copyright (C) Microsoft Corp. 1993-1998
STDOLE2.TLB	Version 2.40.4275 * Copyright (C) Microsoft Corp. 1993-1998
OLEPRO32.DLL	Version 5.0.4275 * Copyright (C) Microsoft Corp. 1993-1998

## 2.4 インストール操作

以下に、インストール方法を記載します。

なお、Windows 2000 / Windows XP をご使用の場合は、使用するマシンの管理者権限を持ったユーザ以外は、インストールを行うことができません。使用するマシンの管理者にご相談ください。

また、本ソフトウェアを使用するためには、「EPSON TM USB Driver」(EPSON USB Controller for TM Printer Series) をインストールしておく必要があります。

「EPSON TM USB Driver」がインストールされていない場合は、USB を使用したデバイスの登録が正常に行なわれません。

「EPSON TM USB Driver」のインストールは、本ソフトウェアのインストール時に行われます。

### 2.4.1 はじめてインストールする場合

<インストール手順>

他のプログラムの動作中にインストールを行うと、失敗する場合があります。

他のプログラムはすべて終了させてください。

Disk-1 のディスク内にある SETUP.EXE を実行してください。

起動するまでに少し時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

「ようこそ」ダイアログが表示されます。

内容をお読みいただき、了解されましたら、[次へ] ボタンを押してください。

「製品ライセンス契約」ダイアログが表示されます。

EPSON OPOS-X ADK をインストールするには、表示されている契約に同意していただく必要があります。内容をお読みいただき、同意されましたら、「使用許諾契約に同意します」を選択してください。

選択すると [次へ] ボタンが有効になりますので、[次へ] ボタンを押してください。[次へ] ボタンを押すと、使用許諾契約の同意について再確認のメッ

ページが表示されます。

同意であれば、[ はい ] ボタンを押してください。

同意されない場合は、[ いいえ ] ボタンを押し、「使用許諾契約に同意しません」を選択した後に、[ キャンセル ] ボタンを押してください。インストールを終了します。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

「セットアップオプションの選択」ダイアログが表示されます。

本ソフトウェアは、本体ソフトウェア、マニュアル、サンプルプログラムから構成されています。マニュアルとサンプルプログラムは、オプションとしてインストールするかしないかを選択することができます。インストールしたいオプションを選択してください。どちらもインストールしないことも可能です。

選択されましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

「レジストリファイルのインポート」ダイアログが表示されます。

REG ファイルを使用しない場合には、「レジストリファイルは使用しない」を選択し、次に [ 次へ ] ボタンを押してください。

REG ファイルを使用する場合には、「レジストリファイルを使用する」を選択してください。選択すると、テキストボックスが有効になります。

使用する REG ファイルをフルパス指定で入力します。( デフォルトではフロッピードライブに存在していることを示す " A:¥OPOSDATA.reg " が入力されています。 )

[ 参照 ] ボタンを押してフォルダを指定することも可能です。

使用する REG ファイルの入力が終わりましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

REG ファイルとは、EPSON OPOS-X ADK に関する情報を復元するためのファイルです。SetupPOS-X ユーティリティを使用して作成してください。不正なレジストリファイルが選択された場合には、エラーメッセージが表示され、次のダイアログボックスに移ることはできません。エラーメッセージに従い、レジストリファイルが正しいかどうかを確認してください。

レジストリファイルが正しく設定されると、これ以降の情報はレジストリファイルから参照されます。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。

あらかじめ、デフォルトのディレクトリが表示されています。デフォルトは、Windows がインストールされているドライブにある Program Files¥OPOS¥EpsonX です。

変更する場合は、[ 参照 ] ボタンを押してディレクトリの選択画面を表示し、ディレクトリを選択してください。

レジストリファイルが指定されている場合には、レジストリファイルより参照されます。こちらは、インストール先の変更をすることができません。

確認、または変更が終わりましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

[ 戻る ] ボタンを押した場合は、設定されたディレクトリは保持されません。

「プログラムフォルダの選択」ダイアログが表示されます。

あらかじめ、決められているフォルダ名が表示されています。レジストリファイルが指定されている場合には、レジストリファイルより参照されます。

通常は、変更せずにご使用ください。フォルダ名の変更や、既存のフォルダを選択することもできますが、既存のフォルダを使用される場合には、そのフォルダの特性を理解された上で選択してください。

お使いになっている OS が Windows 2000、Windows XP の場合、フォルダは必ず、COMMON 特性になります。

次のダイアログに進まれる場合は、[ 次へ ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

[ 戻る ] ボタンを押した場合は、設定された内容は保持されません。

「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。

ここでは、今まで設定した情報が表示されます。内容を確認されましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

ファイルのコピー、DLL,OCX の登録、レジストリへの設定を開始します。

すべてが処理されるまでには、数十秒～数分かかります。しばらくお待ちください。

ここでは [ キャンセル ] ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限りは、途中で [ キャンセル ] ボタンを押さないでください。処理の途中で [ キャンセル ] ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。必ず、再インストールを行ってください。

ファイルのコピーが終了すると、EPSON TM USB Driver ファイルのコピーを行います。

ファイルのコピーを行う際、コピー元が見つけれなかった場合には、ディスクを要求するダイアログが表示されます。手順に従って、EPSON TM USB Driver のディスク場所をフルパスでテキストボックスに入力するか、[ 参照 ] より指定してください。ここで、[ キャンセル ] ボタンを押した場合は、インストールを中断すると判断され、EPSON OPOS-X ADK のインストールは終了

します。[キャンセル]によって終了した場合は、コピーを行ったファイルが全て破棄されてしまいますので、注意してください。

コピー元が見つかった場合、インストール先ディレクトリへ EPSON TM USB Driver のファイルのコピーを行います。終了するまでに少し時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

EPSON TM USB Driver のファイルのコピーが終了すると、EPSON TM USB Driver のインストールを行います。

まず、ターゲット PC に EPSON TM USB Driver がインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合、またはインストールされているバージョンが古い場合に、EPSON TM USB Driver のインストーラを実行します。

インストールされているバージョンが同じか、それ以上である場合は、インストールは行われません。

すべての処理が終了すると、「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。

また、インストールした EPSON OPOS-X ADK に関する情報が記載されたリリースノートを表示するかどうかをチェックボックスで選択することができます。リリースノートを必ずお読みください。

インストールによりシステムファイルが更新された場合には、システムの再起動を要求されることがあります。この場合には、その時点で再起動を行うか、後から再起動を行うかを選択し、実行してください。

なお、システムの再起動の要求で、後から再起動を行うように選択した場合は、必ずインストール終了後にシステムを再起動してください。再起動を行っていない環境での動作は一切保証されません。

インストールが完了しました。SetupPOS-X ユーティリティが自動的に起動します。本マニュアルの「第3章 SetupPOS-X ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

なお、システムの再起動を行った場合は、SetupPOS-X ユーティリティは自動的に起動されませんので、スタートメニューから SetupPOS-X ユーティリティの起動を行ってください。

## 2.4.2 上書きインストールする場合

上書きインストールでは、前回指定したユーザの情報、インストール先の指定、プログラムフォルダの指定がそのまま使用されます。変更することはできません。

### 2.4.2.1 新しいバージョンの上書き

<インストール手順>

他のプログラムの動作中にインストールを行うと、失敗する場合があります。

他のプログラムはすべて終了させてください。

Disk-1 のディスク内にある SETUP.EXE を実行してください。

「ようこそ」ダイアログが表示されます。

内容をお読みいただき、了解されましたら [次へ] ボタンを押してください。

「製品ライセンス契約」ダイアログが表示されます。

EPSON OPOS-X ADK をインストールするには、表示されている契約に同意していただく必要があります。内容をお読みいただき、同意されましたら「使用許諾契約に同意します」を選択してください。

選択すると [次へ] ボタンが有効になりますので、[次へ] ボタンを押してください。[次へ] ボタンを押すと、使用許諾契約の同意について再確認のメッセージが表示されます。

同意でよろしければ、[はい] ボタンを押してください。

同意されない場合は、[いいえ] ボタンを押し、「使用許諾契約に同意しません」を選択した後に [キャンセル] ボタンを押してください。インストールを終了します。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを押してください。

「セットアップオプションの選択」ダイアログが表示されます。

本ソフトウェアは、本体ソフトウェア、マニュアル、サンプルプログラムから構成されています。マニュアルとサンプルプログラムは、オプションとしてインストールするか否かを選択することができます。インストールしたいオプションを選択してください。どちらもインストールしないことも可能です。

選択されましたら、[次へ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを押してください。

「レジストリファイルのインポート」ダイアログが表示されます。

REG ファイルを使用しない場合には、「レジストリファイルは使用しない」を選択してから、[次へ] ボタンを押してください。

REG ファイルを使用する場合には、「レジストリファイルを使用する」を選択してください。選択するとテキストボックスが有効になります。

使用する REG ファイルをフルパス指定で入力します。(デフォルトではフロッ

ピードライブに存在していることを示す“ A:\OPOSDATA.reg ”が入力されています。)

[ 参照 ] ボタンを押してフォルダを指定することも可能です。

使用する REG ファイルの入力が終わりましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

REG ファイルとは、EPSON OPOS-X ADK に関する情報を復元するためのファイルです。SetupPOS-X ユーティリティを使用して作成してください。不正なレジストリファイルが選択された場合には、エラーメッセージが表示され、次のダイアログボックスに移ることはできません。エラーメッセージに従い、レジストリファイルが正しいかどうかを確認してください。

レジストリファイルが正しく設定されると、これ以降の情報はレジストリファイルから参照されます。

「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。

ここでは、今まで設定した情報が表示されます。内容を確認されましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[ 戻る ] ボタンを押してください。

ファイルのコピー、DLL,OCX の登録、レジストリへの設定を開始します。

すべてが処理されるまでには、数十秒～数分かかります。しばらくお待ちください。

ここでは [ キャンセル ] ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限りは途中で [ キャンセル ] ボタンを押さないでください。処理の途中で [ キャンセル ] ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。必ず、再インストールを行ってください。

ファイルのコピーが終了すると、EPSON TM USB Driver のファイルのコピーを行います。

ファイルのコピーを行う際、コピー元が見つけれなかった場合に、ディスクを要求するダイアログが表示されます。手順に従って、EPSON TM USB Driver のディスク場所をフルパスでテキストボックスに入力するか、[ 参照 ] より指定してください。ここで、[ キャンセル ] ボタンを押した場合は、インストールを中断すると判断し、EPSON OPOS-X ADK のインストールは終了します。

[ キャンセル ] によって終了した場合は、コピーを行ったファイルが全て破棄されてしまいますので、注意してください。

コピー元が見つかった場合、インストール先ディレクトリへ EPSON TM USB Driver のファイルのコピーを行います。終了するまでに少し時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

EPSON TM USB Driver のファイルのコピーが終了すると、EPSON TM USB

Driver のインストールを行います。

まず、ターゲット PC に EPSON TM USB Driver がインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合、またはインストールされているバージョンが古い場合に、EPSON TM USB Driver のインストールを実行します。

インストールされているバージョンが同じか、それ以上である場合は、インストールは行われません。

すべての処理が終了すると、「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。

また、インストールした EPSON OPOS-X ADK に関する情報が記載されたリリースノートを表示するかどうかをチェックボックスで選択することができます。リリースノートを必ずお読みください。

インストールによりシステムファイルが更新された場合には、システムの再起動を要求されることがあります。この場合には、その時点で再起動を行うか、後から再起動を行うかを選択し、実行してください。

なお、システムの再起動の要求で、後から再起動を行うように選択した場合は、必ずインストール終了後にシステムを再起動してください。再起動を行っていない環境での動作は一切保証されません。

インストールが完了しました。SetupPOS-X ユーティリティが自動的に起動します。本マニュアルの「第 3 章 SetupPOS-X ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

なお、システムの再起動を行った場合は、SetupPOS-X ユーティリティは自動的に起動されませんので、スタートメニューから SetupPOS-X ユーティリティの起動を行ってください。



#### 2.4.2.2 同じバージョンの上書き

##### <インストール手順>

他のプログラムの動作中にインストールを行うと、失敗する場合があります。

他のプログラムはすべて終了させてください。

Disk-1 のディスク内にある SETUP.EXE を実行してください。

起動するまでに少し時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

「製品メンテナンスへようこそ」ダイアログが表示されます。

ここでは、インストールされている EPSON OPOS-X ADK に対して、「変更」、  
「修正」、「削除」のいずれかを行うことができます。

必要に応じてオプションを選択し、[次へ] ボタンを押してください。[キャンセル] ボタンを押した場合は、インストールを終了します。

- 「変更」を選択

- I. 「セットアップオプションの選択」ダイアログが表示されます。  
マニュアルとサンプルプログラムを、オプションとしてインストールするかアンインストールするかを選択することができます。インストールしたいオプションを選択してください。インストールしない、あるいはアンインストールしたいオプションは、選択を外してください。  
選択されましたら、[次へ] ボタンを押してください。  
前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを押してください。[キャンセル] ボタンを押した場合は、インストールを終了します。
- II. ファイルのコピーを開始します。  
すべてが処理されるまでには、数十秒～数分かかります。しばらくお待ちください。  
ここでは [キャンセル] ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限りは途中で [キャンセル] ボタンを押さないでください。  
処理の途中で [キャンセル] ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。必ず、再インストールを行ってください。
- III. すべての処理が終了すると、「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。
- IV. インストールが完了しました。ここでは、SetupPOS-X ユーティリティが自動的に起動しません。スタートメニューより SetupPOS-X ユーティリティを起動し、本マニュアルの「第 3 章 SetupPOS-X ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

- 「修正」を選択
  - I. 「ようこそ」ダイアログが表示されます。

内容をお読みいただき、了解されましたら、[次へ] ボタンを押してください。
  - II. 「製品ライセンス契約」ダイアログが表示されます。

EPSON OPOS-X ADK をインストールするには、表示されている契約に同意していただく必要があります。内容をお読みいただき、同意されましたら、「使用許諾契約に同意します」を選択してください。

選択すると[次へ] ボタンが有効になりますので、[次へ] ボタンを押してください。[次へ] ボタンを押すと、使用許諾契約の同意について再確認のメッセージが表示されます。

同意でよろしければ、[はい] ボタンを押してください。

同意されない場合は、[いいえ] ボタンを押し、「使用許諾契約に同意しません」を選択した後に[キャンセル] ボタンを押してください。インストールを終了します。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを押してください。
  - III. 「セットアップオプションの選択」ダイアログが表示されます。

本ソフトウェアは、本体ソフトウェア、マニュアル、サンプルプログラムから構成されています。マニュアルとサンプルプログラムは、オプションとしてインストールするかしないかを選択することができます。インストールしたいオプションを選択してください。どちらもインストールしないことも可能です。

選択されましたら、[次へ] ボタンを押してください。

前のダイアログに戻りたい場合は、[戻る] ボタンを押してください。
  - IV. 「レジストリファイルのインポート」ダイアログが表示されます。

REG ファイルを使用しない場合には、「レジストリファイルは使用しない」を選択し、[次へ] ボタンを押してください。

REG ファイルを使用する場合には「レジストリファイルを使用する」を選択してください。選択するとテキストボックスが有効になります。

使用する REG ファイルをフルパス指定で入力します。  
(デフォルトではフロッピードライブに存在していることを示す“A:¥OPOSDATA.reg”が入力されています。)

[ 参照 ] ボタンを押してフォルダを指定することも可能です。  
使用する REG ファイルの入力が終わりましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。

REG ファイルとは、EPSON OPOS-X ADK に関する情報を復元するためのファイルです。SetupPOS-X ユーティリティを使用して作成してください。不正なレジストリファイルが選択された場合には、エラーメッセージが表示され、次のダイアログボックスに移ることはできません。エラーメッセージに従い、レジストリファイルが正しいかどうかを確認してください。

レジストリファイルが正しく設定されると、これ以降の情報はレジストリファイルから参照されます。

- V. 「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。  
ここでは、今まで設定した情報が表示されます。内容を確認されましたら、[ 次へ ] ボタンを押してください。
- VI. ファイルのコピー、DLL,OCX の登録、レジストリへの設定を開始します。  
すべてが処理されるまでには、数十秒～数分かかります。しばらくお待ちください。  
ここでは [ キャンセル ] ボタンが有効になっていますが、特別な理由がない限りは、途中で [ キャンセル ] ボタンを押さないでください。処理の途中で [ キャンセル ] ボタンが押された場合、その後の動作は保証されません。必ず、再インストールを行ってください。
- VII. ファイルのコピーが終了すると、EPSON TM USB Driver のファイルのコピーを行います。  
ファイルのコピーを行う際、コピー元が見つけれなかった場合に、ディスクを要求するダイアログが表示されます。手順に従って、EPSON TM USB Driver のディスク場所をフルパスでテキストボックスに入力するか、[ 参照 ] より指定してください。ここで、[ キャンセル ] ボタンを押しますと、インストールを中断すると判断し、EPSON OPOS-X ADK のインストールは終了します。[ キャンセル ] によって終了した場合、コピーを行ったファイルは全て破棄されてしまいますので、注意してください。  
コピー元が見つかった場合、インストール先ディレクトリへ EPSON TM USB Driver のファイルのコピーを行います。終了するまでに少し時間がかかりますので、しばらくお待ちください。
- VIII. EPSON TM USB Driver のファイルのコピーが終了すると、EPSON

TM USB Driver のインストールを行います。

ターゲット PC に EPSON TM USB Driver がインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合、またはインストールされているバージョンが古い場合に、EPSON TM USB Driver のインストーラを実行します。

インストールされているバージョンが同じか、それ以上である場合は、インストールは行われません。

- IX. すべての処理が終了すると、「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。

また、インストールした EPSON OPOS-X ADK に関する情報が記載されたリリースノートを表示するかどうかをチェックボックスで選択することができます。リリースノートを必ずお読みください。

- X. インストールによりシステムファイルが更新された場合には、システムの再起動を要求されることがあります。この場合には、その時点で再起動を行うか、後から再起動を行うかを選択し、実行してください。

なお、システムの再起動の要求で、後から再起動を行うように選択した場合は、必ず、インストール終了後にシステムを再起動してください。再起動を行っていない環境での動作は一切保証されません。

- XI. インストールが完了しました。SetupPOS-X ユーティリティが自動的に起動します。本マニュアルの「第 3 章 SetupPOS-X ユーティリティ」に記載されている仕様に従い、設定を確認してください。

なお、システムの再起動を行った場合は、SetupPOS-X ユーティリティは自動的に起動されませんので、スタートメニューから SetupPOS-X ユーティリティの起動を行ってください。

- 「削除」を選択

アンインストールを行います。詳細につきましては、本マニュアルの第 2 章「2.14 アンインストール操作」を参照してください。

## 2.5 インストールされるファイル

インストールが正常に終了すると、以下のファイルがインストールされます。

- プログラムファイル

インストール先フォルダの下に展開されます。CO、SO、ユーティリティ、デバイス情報ファイルが該当します。

これらのファイルは、常にインストールされます。

- インクルードファイル

インストール先フォルダの Include フォルダに展開されます。OPOS-X に必要な C++用ヘッダファイル、VB 用ヘッダファイル、CO の TLB ファイルが該当します。

これらのファイルは、常にインストールされます。

- サンプル

インストール先フォルダの Sample フォルダに展開されます。VC++用、VB 用のサンプルプログラムが該当します。

インストール時に、セットアップオプションの選択でサンプルを指定すると、これらがインストールされます。

- マニュアル

インストール先フォルダの Manual フォルダに展開されます。本ソフトウェアに必要なマニュアルがインストールされます。

インストール時に、セットアップオプションの選択でマニュアルを指定すると、これらがインストールされます。

- EPSON TM USB Driver ファイル

インストール先フォルダの Tmusb フォルダに展開されます。EPSON TM USB Driver のインストーラと関連ファイルが該当します。

それぞれ OS ごとにフォルダが作成され、ファイルがコピーされます。

これらのファイルは、常にインストールされます。

- EPSON TM Maintenance Utility

インストール先フォルダの Utility フォルダに展開されます。EPSON TM Maintenance Utility と関連ファイルが該当します。

これらのファイルは、常にインストールされます。

## 2.6 CO の登録

EPSON OPOS-X ADK では、EPSON CO の使用を推奨しますが、CommonCO (CCO) の使用も可能です。このように複数の CO を使用される場合は、以下の注意が必要です。

なお、CommonCO (CCO) の入手方法についてはリリースノートを参照してください。

(VB でアプリケーションを作成する場合)

VB のコンポーネントの追加でコントロールをフォームに貼り付ける

この場合は、コンポーネントダイアログボックスに CO のタイプライブラリに適用される文字列が表示されます。

この文字列は個別のものであるため、実際に使用したい CO を選択することが

可能です。複数の CO を登録されている場合は、使用したい CO をコンポーネント一覧から選択してください。

Create Object でプログラム ID を指定して CO を作成する

この場合は、CO のプログラム ID を指定します。

プログラム ID は、共通 CO ならば”OPOS.OPOSPOSPrinter”です。OPOS-X が提供する CO ならば”OPOS.EPSONPOSPrinter”です。同じデバイスクラスの CO が複数登録されている場合は、後から登録された CO が作成されます。

この方法を利用される場合には、CO の登録の順序にも注意を払わなければなりません。

WithEvent を用いて CO を作成する

この場合は、as Object とすることができませんので、as Class Name とする必要があります。

CO の Class Name は同じ場合もありますし、異なる場合もあります。

WithEvent を用いて変数を宣言する前に、 の方法でコンポーネントを選択しているため、コンポーネント ダイアログ ボックスで選択したコンポーネントが使用されます。

## 2.7 INI ファイル

SETUP.INI は、SETUP.EXE が参照するファイルです。

これらのファイルは、必ず、SETUP.EXE と同じディレクトリに存在する必要があります。これらのファイルの編集は行わないでください。編集をされた場合の動作は保証されません。

## 2.8 システム設定ファイル

システム設定ファイル ( AUTOEXEC.BAT,CONFIG.SYS,SYSTEM.INI ) を書き換える必要はありません。

## 2.9 レジストリファイルを使用したインストール方法

いずれかの PC で作成した環境を別の PC で復元したい場合に使用します。SetupPOS-X ユーティリティで各種設定を行うと、レジストリに情報を保存できます。SetupPOS-X ユーティリティでは、レジストリの必要な情報のみをファイルに格納する機能があります。このファイルをインストーラで指定することにより、同じ環境を復元することが可能です。

この機能を利用する場合は、下記の手順で行ってください。

ここでは、作成元の環境を「メイン PC」、復元したい環境を「ターゲット PC」と称して説明します。

**<手順>**

メイン PC にEPSON OPOS-X ADK をインストールした後、SetupPOS-X ユーティリティを使用して、各種情報や、各種デバイスの設定を行います。その後、SetupPOS-X ユーティリティを使用して、レジストリの保存を行ってください。その際は、必ず「全体を保存」を指定してファイルを作成してください。

ターゲット PC にインストールを行います。

以下の2つの方法があります。環境に合わせて選択してください。

- ・通常のインストール方法でインストールする。
- ・サイレンスインストールの方法でインストールする。

通常のインストール方法でインストールする場合には、本マニュアルの第2章「2.4 インストール操作」を参照し、手順に沿ってインストールを行ってください。

サイレンスインストールを行う場合は、本マニュアルの第2章「2.10 サイレンスインストール」を参照してください。

インストール時には、手順 で保存したレジストリファイルを指定してください。

**<制限事項>**

- レジストリファイルは、必ずSetupPOS-X ユーティリティを使用して作成してください。
- レジストリファイルには、これからインストールしようとするバージョンと同じバージョンの情報が格納されているか、すでにインストールされている環境と同じ情報が入っている必要があります。

**2.10 サイレンスインストール**

ユーザーインタフェースを使用せずにインストールを行うことができます。これをサイレンスインストールと呼びます。この機能は、本マニュアルの第2章「2.9 レジストリファイルを使用したインストール方法」で説明したレジストリファイルを使用しますので、そちらを参照してください。

この機能は主に、ターゲット PC へのインストールに使用することができます。

メイン PC へのインストールは、通常のユーザーインタフェースを使用したインストールの方法で行ってください。

ターゲット PC、メイン PC につきましては、本マニュアルの第2章「2.9 レジストリファイルを使用したインストール方法」を参照してください。

サイレンスインストールを行った場合は、レジストリファイルをもとにメイン PC と同じ情報が復元されます。

この機能を利用する場合は、下記の手順で行ってください。

#### <手順>

メイン PC に、EPSON OPOS-X ADK をインストールした後、SetupPOS-X ユーティリティを使用して、各種情報や各種デバイスの設定を行います。その後、SetupPOS-X ユーティリティを使用してレジストリの保存を行ってください。

その際は、必ず「全体を保存」を指定してファイルを作成してください。

ターゲット PC にインストールを行います。

コマンドラインを使用し下記のように指定を行ってください。

フルパス付き Setup.exe /a"フルパス付きレジストリファイル名"

例) : A:¥Setup.exe /a"A:¥OposData.reg"

結果はログファイルに格納されます。

ログファイルはインストール先ディレクトリに Silence.log という名前で作成されます。エラーに関する情報も、すべてここで知ることができます。

ただし、インストールが完了するまではインストール先が確定しないため、Windows があるドライブのルート (例 : "C:¥") に作成されます。サイレンスインストール終了後は、必ずログファイルでエラーが発生していないことを確認してください。

#### < Silence.log の見方 >

[SilenceMode Log]

Silence Mode Start : サイレンス処理開始

[SilenceMode Log End] : サイレンス処理終了

ERROR : エラーメッセージ

WARNING : ワーニングメッセージ

INFORMATION : 情報

MESSAGE : メッセージ

メッセージにつきましては、本マニュアルの第 2 章「2.11 メッセージ」に表記されているものと同様のものが格納されます。

Silence.log は一度作成されると、そこに結果が追加されていきますので、最新の結果は、最後のサイレンス処理の開始以降部分を参照してください。



## 2.11 メッセージ

各ダイアログ等で実行、および設定される事項によって、メッセージが表示される場合があります。

その内容は、以下のとおりです。

### 2.11.1 起動時のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
アドミニストレータ権限をもたないユーザがインストールを行った場合 (Windows 2000 / Windows XP)	アドミニストレータ権限を持たないユーザではインストール、アンインストールはできません。
新しい Version に、前のバージョンを上書きインストールしようとした場合	インストールしようとしている EPSON OPOS-X ADK より新しい EPSON OPOS-X ADK がすでにインストールされています。
上書き/共存が禁止されている特別なバージョンがインストールされている状態で、上書き/共存可能なバージョンをインストールしようとした場合	カスタム版 EPSON OPOS-X ADK がすでにインストールされているため、インストールできません。
言語が違うバージョンがすでにインストールされている場合	インストールされている言語情報が違います。
ベースバージョンが異なるサービスパックを上書きインストールしようとした場合	サービスパック対応バージョンの EPSON OPOS-X ADK がインストールされていません。
インストールされているバージョン情報が不正であった場合	インストールされているバージョンがサポート対象ではありません。

## 2.11.2 インストール動作中のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
レジストリの情報に不正なデータがある場合	レジストリ情報に不正な結果が返ってきました。
「レジストリファイルのインポート」ダイアログで、指定したレジストリファイルが存在しない場合	指定ファイルが存在しません。
不正なフォルダが指定された場合	フォルダ名が不正です。
実行中のインストーラの言語情報に不正な結果が返ってきた場合	言語情報に不正な結果が返ってきました。
ファイルをコピーする処理に失敗した場合	ファイルのコピーに失敗しました。
自動登録ファイルの登録処理に失敗した場合	ファイルの自動登録に失敗しました。
予期していないエラーが発生した場合	予期せぬエラーが検出されました。

動 作	メッセージ
ライセンス契約に同意した場合	本当に使用許諾契約に同意しますか？

## 2.11.3 サイレンスモード指定時のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
サイレンスインストールのコマンドラインパラメータに不正な値が指定された場合	コマンドラインパラメータの書式が違います。以下のように定義してください。 Setup.exe /a"RegData.reg"
コマンドラインで存在しないレジストリファイルが指定された場合	コマンドラインパラメータで指定されたレジストリファイルが見つかりません。
パラメータにサポートしていないレジストリファイルが指定された場合	コマンドラインで指定されたレジストリファイルが不正です。
ログファイルの作成に失敗した場合	サイレンスログファイルの作成に失敗しました。
ログファイルの書き込みに失敗した場合	サイレンスログファイルをオープンできませんでした。

## 2.11.4 レジストリファイル関連のメッセージ

動 作	エラーメッセージ
レジストリファイルのインポート、または起動時のパラメータの指定で、インストールされていないバージョンのレジストリファイルを指定された場合	レジストリファイルに記録されているバージョンが、本インストールのバージョンと一致しません。
レジストリファイルのインポート、または起動時のパラメータの指定で、言語が違うバージョンで作成されたレジストリファイルが指定された場合	レジストリに記録されている OPOS-X の言語が、本インストールの言語と一致しません。
レジストリファイルに記録されている EPSON OPOS-X ADK のインストール先ドライブがターゲット PC に存在しない場合	指定されたディレクトリに上書きすることはできません。

## 2.12 インストール時の注意

- バージョン、言語（US版、J版）の異なる EPSON OPOS-X ADK がすでにインストールされている場合は、上書きインストールをすることはできません。
- 従来の EPSON OPOS ADK と共存してインストールを行う場合で、言語（US版、J版）の異なる EPSON OPOS ADK がインストールされている場合は、共存インストールをすることはできません。
- バージョン（サービスパック含む）、言語（US版、J版）が異なる EPSON OPOS-X ADK 上で格納したレジストリ情報ファイルを読み込むことはできません。
- 何らかの理由によりインストールに失敗した場合、またはキャンセルした場合には、かならず再インストールを行ってください。  
インストールに失敗、キャンセルした状態でアンインストールを実行しても、完全に環境等が削除されない場合があります。  
また、再インストール後でも動作が不安定な場合は、最初の失敗のために正常に登録できなかったことが考えられます。このような場合は、お手数ですが一度アンインストールしてから、改めてインストールをし直すことをお勧めします。
- TM-C100 の場合、EPSON OPOS-X ADK をインストールする前に、PC にプリンタを接続して電源を投入しないでください。EPSON OPOS-X ADK のインストール前に、TM-C100 の電源を投入した場合は、EPSON OPOS-X ADK をインストールしても、正しく動作しません。正しく動作しなくなってしまった場合には、以下に示す手順を実行することで、正しく動作する状態に回復できます。

PCにTM-C100を接続し、電源を投入します。

デバイスマネージャを起動します。

USBコントローラの下にUSB印刷サポートがありますので、それを選択し、マウスの右クリックで表示されたメニューから削除を実行してください。

TM-C100の電源を一度Offし、再度Onしてください。

デバイスマネージャのUSBコントローラの下にEPSON USB Controller for TM/BA/EU Printersが表示される事を確認してください。

## 2.13 アンインストール

インストールしたEPSON OPOS-X ADK をアンインストールする場合は、必ず、専用のアンインストーラを使用してください。アンインストーラを実行するには、下記の方法があります。

- コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を選択し、EPSON OPOS-X ADK Version1.xx を選択する。
  - 同一 Version のインストールディスクの SETUP.EXE を実行する。
- いずれの場合も、EPSON OPOS-X ADK の製品メンテナンスモードが起動されます。メンテナンスモードで「削除」を選択してください。
- アンインストールを行う場合は、OPOS-X のファイルを使用しているアプリケーションはもちろんのこと、他のアプリケーションが動作していないことを必ず確認してください。
- なお、Windows 2000 / Windows XP をご使用の場合は、使用するマシンの管理者権限を持ったユーザ以外は、インストールプログラムを使用することができません。使用するマシンの管理者にご相談ください。

## 2.14 アンインストール操作

前述したいずれかの方法でアンインストーラを実行します。

「製品メンテナンスへようこそ」ダイアログが表示されます。

アンインストールを行う場合は「削除」を選択して、[次へ] ボタンを押してください。

中止する場合は、[キャンセル] ボタンを押してください。

「ファイル削除の確認」メッセージボックスが表示されます。

アンインストールを続ける場合は、[はい] ボタンを押してください。

[いいえ] ボタンを押した場合、「製品メンテナンスへようこそ」ダイアログへ戻ります。

アンインストールを開始します。

アンインストール中は、アンインストール状態を示すプログレスバーが表示されます。

アンインストール中に [キャンセル] ボタンを押すと、中止ができない旨のメッセージが表示され、アンインストールを続行します。

アンインストール処理が終了すると、「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。

## 2.15 サイレンスアンインストール

ユーザーインタフェースを使用せずにアンインストールをすることができます。これをサイレンスアンインストールと呼びます。

サイレンスアンインストールを使用した場合は、フルアンインストールのみを行います。コマンドラインより、下記のように指定してください。

フルパス付き Setup.exe /k  
 例) : A:¥Setup.exe /k

/Kのみをパラメータに指定することにより、現在インストールされているバージョンをアンインストールします。

## 2.16 システムファイルのアンインストール

MFC42.DLL、MSVCRT.DLL、OLEAUT32.DLL、STDOLE2.TLB、OLEPRO32.DLL等は、システムディレクトリからは削除されません。

## 2.17 アンインストールメッセージ

各ダイアログ等で実行、設定される事項によってメッセージが表示される場合があります。メッセージの大半はインストール時のメッセージと同様です。（本マニュアルの第2章「2.11 メッセージ」を参照）

アンインストール時固有のメッセージ内容は、以下の通りです。

動 作	エラーメッセージ
アンインストール中に [ キャンセル ] を選択した場合	アンインストールを中止することは出来ません。

## 2.18 アンインストール時の注意

- アンインストールでは、OPOS-X に関連するファイルが使用されていないことを前提に処理を進めていますが、万が一、OPOS-X に関連するファイルが使用されていた場合には、削除できない旨のメッセージを表示し、再試行を行います。このメッセージが出た場合には、すみやかに関連するファイルを使用しているアプリケーションを終了してください。その後、再試行を行うことにより、アンインストールが続行します。再試行を行わなかった場合には、ディレクトリにファイルのみが残ります。
- 本アンインストーラでは、インストーラで提供している EPSON TM USB Driver のアンインストールは行いませんが、これらの Driver がインストールしてある状態であっても、その後のシステムの動作には影響ありません。

## 第3章 SetupPOS-X ユーティリティ

---

---

SetupPOS-X ユーティリティは、EPSON OPOS-X ADK で使用するデバイスやポートの環境を、システムレジストリに登録、変更、削除する場合に使用するセットアップユーティリティです。

なお、Windows 2000、Windows XP の場合は、使用するマシンの管理者権限を持ったユーザ以外は、登録や変更を行うことができません。

管理者以外のユーザは、設定の参照のみを行うことができます。

### 3.1 SetupPOS-X ユーティリティの起動

#### 3.1.1 SetupPOS-X ユーティリティを起動するには

セットアップは、インストール実行後に続けて設定を行うことができます。

また、インストール完了後も、[ スタート ] メニュー [ プログラム ]


[ OPOS ] [ SetupPOS-X Version1.00 ] を選択して起動することができます。

#### 3.1.2 SetupPOS-X ユーティリティを終了するには

以下の3つの方法で終了が可能です。

SetupPOS-X ユーティリティメインウィンドウの [ ファイル ] メニューから [ 終了 ] を選択します。

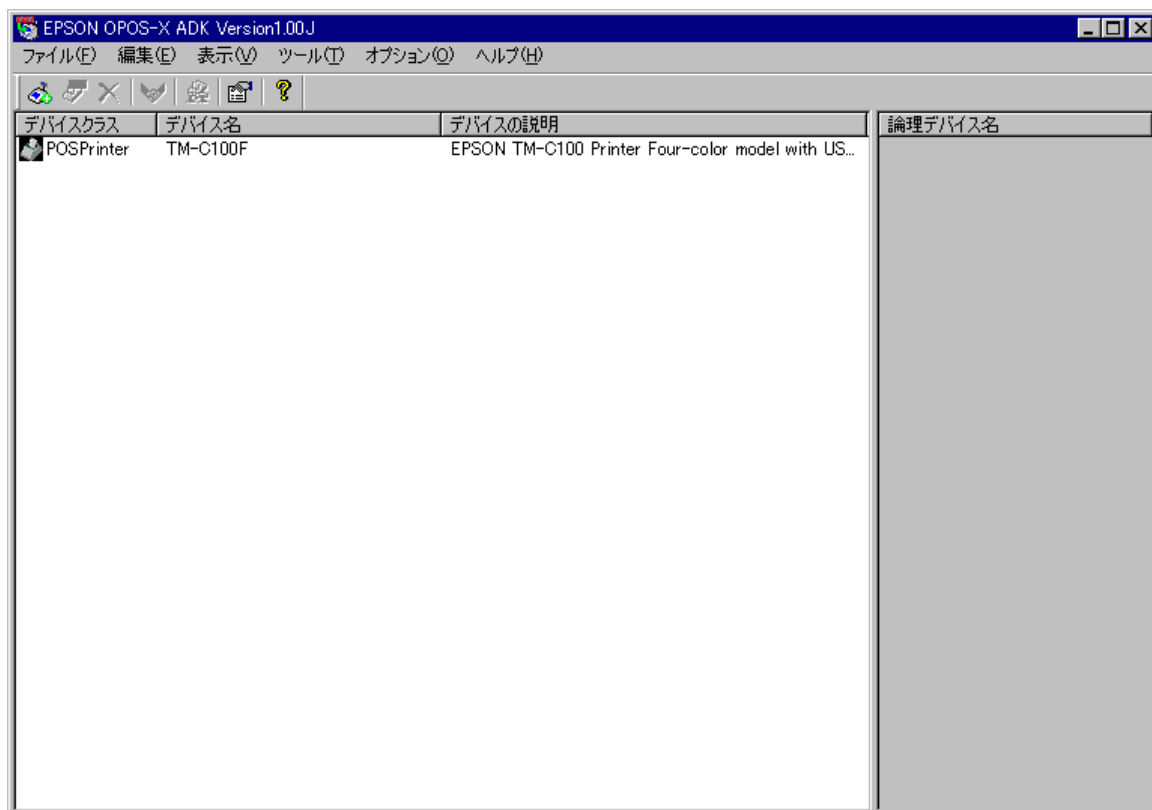
ウィンドウの右上隅の [ 閉じる ] ボタンを押します。

SetupPOS-X ユーティリティメインウィンドウの左隅にあるアイコン  を

クリックし、[ 閉じる ] ボタンを押します。

### 3.2 基本操作（メインダイアログボックス）

SetupPOS-X ユーティリティを起動すると、ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、デバイスの追加、削除、各種設定を行うことが可能です。



以下に、各項目の説明をします。

#### 3.2.1 メニュー

##### 1 ファイル

プロパティ表示、およびSetupPOS-X ユーティリティ終了処理のために使用します。

##### プロパティ

登録されている項目のプロパティを表示します。

プロパティは情報を表示するだけで、変更はできません。

表示するプロパティは選択中の項目により、以下の通りとなります。

- DeviceName  
登録されているデバイスをリストから選択できます。プロパティを表示したいデバイスを選択してください。
- CO Description



Control Object の Description ( ContolrObjectDescription ) を表示します。

- CO Version  
Control Object の Version ( ContolrObjectVersion ) を表示します。
- SO Description  
Service Object の Description ( ServiceObjectDescription ) を表示します。
- SO Version  
Service Object の Version ( ServiceObjectVersion ) を表示します。
- HM Version  
Service Object の下位層である HM( Host Module )の Version を表示します。
- PM Version  
Service Object の下位層である PM ( Printer Module ) の Version を表示します。

終了

SetupPOS-X ユーティリティを終了します。

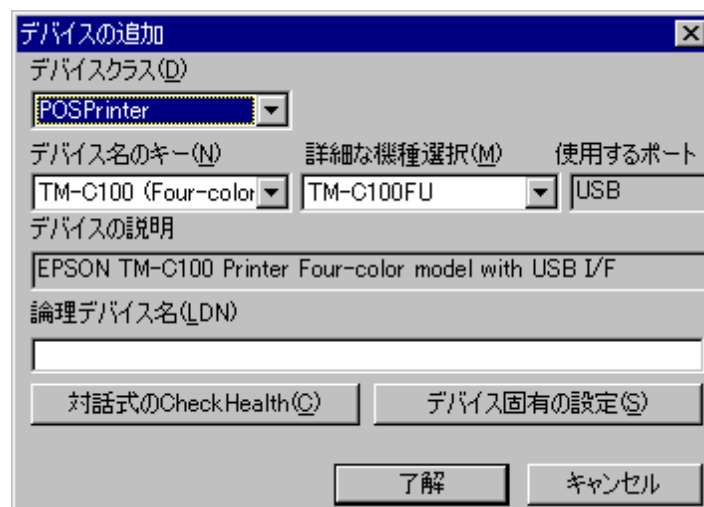
## 2 編集

デバイス設定等の編集に関する項目です。

### デバイスの追加

デバイスの追加ダイアログが表示され、新たにデバイスクラスにデバイスを追加することができます。追加可能なデバイスクラスはインストールプログラムにより、あらかじめ、用意されたデバイスクラスです。

Windows 2000、Windows XP の場合、管理者以外のユーザはこの機能を利用することはできません。



### <デバイス追加ダイアログボックス>

- [ デバイスクラス ] リストボックス  
追加するデバイスクラスを選択します。
- [ デバイス名のキー ] リストボックス  
該当する機種を選択します。
- [ 詳細な機種選択 ] リストボックス  
サポートしているインタフェイスごとに、詳細な機種名が異なります。ご使用になるインタフェイスを考慮して、機種を選択してください。「詳細な機種選択」を変更すると、「使用するポート」に該当するインタフェイスが表示されます。
- [ 使用するポート ] 表示フィールド  
「詳細な機種選択」で選択された機種に該当するインタフェイスを表示します。
- [ デバイスの説明 ] 表示フィールド  
「デバイス名のキー」、「詳細な機種選択」で選択された機種に対応する説明を表示します。
- [ 論理デバイス名入力 ] エディット  
選択されたデバイスに対する論理デバイス名を入力します。  
論理デバイス名の最大文字数は、16 文字（半角）です。“¥”を論理デバイス名の中に含めることはできません。  
また、同一デバイスクラスですでに使用されている論理デバイス名を指定することはできません。
- [ 対話式の CheckHealth ] ボタン  
選択されたデバイスに対して、CheckHealth メソッドを Level = OPOS\_CH\_INTERACTIVE で呼び出します。
- [ デバイス固有の設定 ] ボタン  
デバイス固有の設定ダイアログボックスが表示され、選択されたデバイスに

対して、デバイス固有の設定を行うことができます。  
 デバイス固有の設定については、デバイスクラス別のアプリケーション開発ガイドを参照してください。

- [了解] ボタン  
 デバイスの追加を確定します。
- [キャンセル] ボタン  
 設定を中止して、ダイアログボックスを終了します。

### デバイスを追加するには

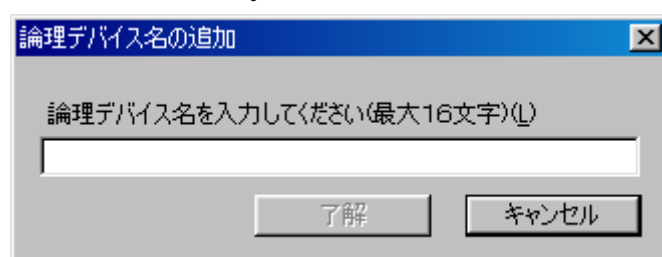
次の2つの方法があります。

- メインウィンドウで[編集]メニューから[デバイスの追加]を選択します。  
 デバイス追加ダイアログが表示されます。
- ツールバーからデバイスの追加アイコンをクリックします。  
 デバイス追加ダイアログが表示されます。

### 論理デバイス名の追加

- 論理デバイス名の追加ダイアログが表示され、デバイスに対応する新しい論理デバイス名を追加することができます。現在選択されているデバイスの論理デバイス名が対象となります。

同一デバイスクラスですでに使用されている論理デバイス名を指定することはできません。



### <論理デバイス名の追加ダイアログボックス>

- [論理デバイス名を入力してください] エディットボックス  
 追加したい論理デバイス名を入力します。  
 論理デバイス名の最大文字数は16桁で、文字中に“¥”を含むことはできま

せん。登録済みの論理デバイス名、または無効な論理デバイス名が入力された場合は、[ 了解 ] ボタンは無効になります。

- [ 了解 ] ボタン  
論理デバイス名を設定します。
- [ キャンセル ] ボタン  
設定を中止して、ダイアログボックスを終了します。

### 論理デバイス名を追加するには

次の2つの方法があります。

- メインウィンドウで論理デバイス名を追加したいデバイス名のキーを選択します。[ 編集 ] メニューから [ 論理デバイス名の追加 ] を選択し、論理デバイス名を入力します。
- メインウィンドウで、論理デバイス名を追加したいデバイス名のキーを選択します。ツールバーから論理デバイス名の追加アイコンをクリックします。

### 削除

現在、ウィンドウで選択されているデバイスを削除します。

削除する前に、確認のメッセージボックスが表示され、[ はい ] ボタンを押すとデバイスが削除されます。

デバイス名のキーや論理デバイス名が選択されていない場合は、この操作は無効となります。

Windows 2000、Windows XP の場合、管理者以外のユーザはこの機能を利用することはできません。

### デバイスを削除するには

次の2つの方法があります。

- 1) メインウィンドウで削除したいデバイス名のキー、または論理デバイス名を選択し、[ 編集 ] メニューから [ 削除 ] を選択します。  
あるいは、メインウィンドウで削除したいデバイス名のキー、または論理デバイス名を選択し、ツールバーの [ 削除 ] アイコンを選択します。
- 2) メインウィンドウで削除したいデバイス名のキー、または論理デバイス名を選択し、キーボードの [ Delete ] キーを押下します。

### 3 表示

メインダイアログボックスの表示に関する項目です。

#### ツールバー

ツールバーの表示を切り替えます。

チェックマークがついている場合 : ツールバーを表示します。

チェックマークがついていない場合 : ツールバーを表示しません。

デフォルトでは、チェックマークがついています。

#### ツールバーとは

メインウィンドウのメニューバーの下にあり、よく使うメニュー項目がボタンとして用意されています。各ボタンをクリックするだけで各メニュー項目を簡単に実行することができます。

#### スプリット

左右のウィンドウの大きさを調整することができます。

スプリットを選択すると、メインウィンドウの論理デバイス名との境のバーが移動可能状態になります。マウスあるいはキーボードの「`Alt`」「`Shift`」キーでバーを動かしてください。確定はマウスのボタンを離す、あるいは「`ENTER`」キーで行うことができます。

メインウィンドウの論理デバイス名との境のバーに、直接カーソルを持っていくことでも、バーの位置は調整可能となります。

### 4 ツール

デバイスの補助的なツールに関する項目です。

#### 対話式の CheckHealth

メインウィンドウで選択中のデバイス（デバイス名のキー）に対して、`CheckHealth` メソッドを、`Level = OPOS_CH_INTERACTIVE` で呼び出します。呼び出しが成功した場合には、`CheckHealthText` が表示されます。

呼び出しの過程でエラーが発生した場合は、エラーが発生した API 呼び出しと、`ResultCode`、`ResultCodeExtended` が表示されます。

メインウィンドウでデバイス名のキーを選択していない場合は、このボタンは無効になります。

### 対話式の CheckHealth ( OPOS\_CH\_INTERACTIVE ) とは

デバイスとの対話テストを実行します。

サポートするサービスオブジェクトは、通常、ダイアログボックスを表示して、テストオプションと結果を表示します。

#### デバイス固有の設定

メインウィンドウで選択中のデバイス固有の設定を行うことができます。

メインウィンドウでデバイス名のキーを選択していない場合は、この操作は無効となります。

また、選択されたデバイスがデバイス固有の設定をサポートしない場合も無効になります。

Windows 2000、Windows XP の場合、管理者以外のユーザはこの機能を利用することはできません。

デバイス固有の設定については、デバイスクラス別のアプリケーション開発ガイドを参照してください。

#### レジストリの保存

レジストリの保存 ダイアログボックスが表示され、現在の OPOS-X レジストリの設定をレジストリデータファイルに出力することができます。

保存されたファイルは、OPOS-X 環境の復元やコピー、インストール時に使用することができます。

出力するファイル名は「名前を付けて保存」ダイアログボックスで指定します。

すでに存在するファイルを指定した場合は、上書き確認のメッセージボックスが表示されます。ここで「はい」（置き換える）、または「いいえ」（追加する）を指定することにより、上書きすることが可能です。

ファイルを置き換える場合は、以前のレジストリデータはすべて削除されます。

ファイルに追加する場合は、以前のレジストリデータの内容は保存され、新しい設定がファイルの最後に追加されます。

保存対象は、「全体を保存」 / 「選択中」から選択することができます。

### <レジストリの保存ダイアログボックス>

- [全体を保存] ボタン  
OPOS-X レジストリ全ての設定を、レジストリデータファイルに出力します。  
レジストリ ADK 構成キーの下の設定は、常に全て保存されます。「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存するファイル名を指定してください。このファイルをインストーラで使用したい場合は、必ず拡張子を「.REG」としてください。
- [選択中] ボタン  
メインウィンドウで選択中の項目に対応する OPOS-X レジストリの設定をレジストリデータファイルに出力します。  
レジストリデータに関係する項目がメインウィンドウで選択されていない場合、このボタンは無効になります。  
「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存するファイル名を指定してください。このファイルをインストーラで使用したい場合は、必ず拡張子を「.REG」としてください。
- [キャンセル] ボタン  
レジストリを保存せずに、ダイアログを終了します。

## 5 オプション

保守に関する項目です。

### トレースの設定

OPOS API のトレース機能の設定ダイアログを表示して、OPOS API のトレース機能を設定します。このトレース（ログ）機能は、アプリケーション開発を支援するために提供されています。OPOS-X アプリケーションのデバッグを行う場合以外は、この機能を使用する必要はありません。

Windows 2000、Windows XP の場合、管理者以外のユーザはこの機能を利用することはできません。

### <トレース設定ダイアログボックス>

- [デバイス名] コンボボックス  
OPOS API トレース機能を有効にするデバイス名を指定します。  
「個々にトレースする」を選択した場合にトレース対象となるデバイスです。メインウィンドウでデバイス名のキーが選択されている場合は、そのデバイスがデフォルトで表示されます。

現在選択されているデバイスに対する設定が変更されている時に、他のデバイスに変更しようとする、設定の変更を保存するかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。ここで「はい」を選択すると、設定をレジストリに書き込みます。このダイアログを「キャンセル」で終了しても、この設定は保持されます。

- [トレースモード] ラジオボタン

次の中からトレースモードを選択します。

- [トレースしない] : OPOS API トレース機能を無効にします。  
デフォルトでこの項目がチェックされています。
- [全体をトレースする] : すべての OPOS-X デバイス  
(EPSON デバイスのみ) がトレースされます。
- [個々にトレースする] : 指定した有効なデバイスのみトレースされます。

通常は、[トレースしない] を選択しておきます。

OPOS API のトレースが有効になると、すべての OPOS API コール (すべてのプロパティアクセスとすべてのメソッドコール) がトレースされ、トレースログファイルに記録されます。[全体をトレースする] は [個々にトレースする] よりも優先されます。

一方、[個々にトレースする] を設定すると、[全体をトレースする] の設定は削除されます。例えば、POS プリンタで [全体をトレースする] の設定をしておいても、その後、ラインディスプレイで [個々にトレースする] を設定すると、POS プリンタはトレースの対象から外されてしまいます。

そうしたことを避けるためにも、トレースしたいデバイスは、必ず、[個々にトレースする] を設定してください。

CommonCO (CCO) を登録されている場合は、トレースできるデバイスクラスが限定されます。[全体をトレースする] が選択されている場合でも、トレースできるデバイスクラスのみがトレースされます。

- [特別なログファイルを使用する] チェックボックス

特別な名前のトレースログファイルを指定する場合は、このチェックボックスをチェックします。チェックすることにより、トレースログファイル名が変更できるようになります。

このチェックボックスがクリアされている間は、トレースログファイル名は自動的に以下のように設定されます。

全体をトレースする : (OPOS-X インストールディレクトリ)



## ¥OPOSAPI.LOG

個々にトレースする：（OPOS-X インストールディレクトリ）

¥（デバイス名）.LOG

なお、他のログファイル（POSPrinter のエラーログを含む）と同じ名前を指定すると、後から使用するデバイスのログを取ることができません。これを避けるためにも他のログファイルと同じ名前は使用しないでください。

- [了解] ボタン  
ダイアログを終了し、現在の設定を保存します。
- [キャンセル] ボタン  
設定を中止して、ダイアログを終了します。

## 6 ヘルプ

ヘルプに関する項目です。

SetupPOS-X について








バージョン情報ダイアログが表示され、EPSON OPOS-X ADKの Version 情報を見ることができます。

### 3.2.2 ツールバー

メニューバーの主要な機能をボタンひとつで簡単に操作することができます。

ツールバーには、以下に示す種類の項目があります

各機能につきましては、メニューバーのそれぞれの説明を参照してください。

1.  デバイスの追加
2.  論理デバイス名の追加
3.  削除
4.  対話式の CheckHealth
5.  デバイス固有の設定
6.  プロパティ
7.  ヘルプ

### 3.2.3 左ウィンドウ

登録されたデバイスのデバイスクラス、デバイス名、デバイスの説明が表示されます。

### 3.2.4 右ウィンドウ

左ウィンドウで選択されたデバイスの論理デバイス名一覧が表示されます。